

第2期展示  
世界遺産・アジア編  
～アジアの風によって～

# 砂の美術館

The Sand Museum

鳥取砂丘の砂が見事な彫刻となった「砂の美術館」が4月26日（土）にオープンしました。第2期展示は、アジアの世界遺産をテーマに11作品30基を、日本、中国、シンガポール、インド、イタリアの出身で世界トップレベルの砂像彫刻家8人が制作しました。開館期間は、来年1月3日（土）までの約8か月。彫刻とは言っても素材は砂。残念ながら自然と風化が進んでいきます。お早めにご来館ください。

また、砂の彫刻は、太陽の光が降り注ぐ昼間、たそがれ時、ライトアップした夜間と時の流れの中で刻々とその表情を変えます。ぜひそれぞれの時間帯でお楽しみください。

タージマハル  
(インド)

**【会期】**平成20年4月26日（土）  
～平成21年1月3日（土）

**【開催場所】**鳥取砂丘情報館サンドパルとっとり隣接地

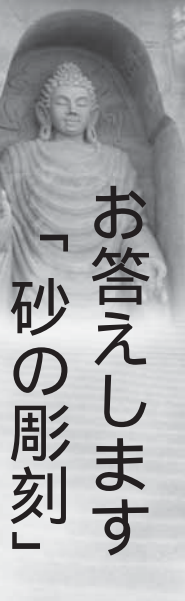
**【開館時間】**9:00～21:00（夜間館内ライトアップ）  
最終入館は閉館30分前）

**【入場料】**一般300円（250円）小・中・高校生200円（150円）  
（ ）内は20人以上の団体料金  
障害者手帳所持者等は観覧無料です

**【お問い合わせ】**鳥取砂丘情報館サンドパルとっとり

TEL0857-20-2231 FAX0857-20-2232

天候などにより作品が破損している場合があります。



## お答えします 「砂の彫刻」

**Q** 砂の彫刻は、雨が降っても崩れないのですか？

**A** やはり素材が砂なので、崩れてしまいます。また、日にちがたつにつれて表面が風化します。最後には砂にもどります。新たな砂像彫刻のための砂となるのです。



エローラ石窟寺院を制作する  
スタサン・パタナイクさん（インド）



メイン館内のようす

万里の長城  
（中国）



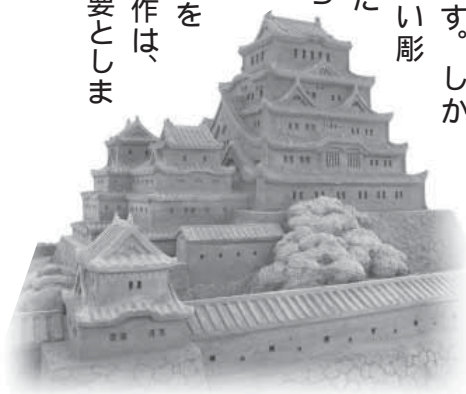
**展示作品**（カッコ内は所在地と世界遺産登録年）

- 兵馬俑（中国 1987年）
- 人頭有翼の雄牛像（イラク 2003年）
- ペルセポリスのレリーフ像（イラン 1979年）
- 古都アユタヤの遺跡（タイ 1991年）
- カジュラホ寺院の壁画（インド 1986年）
- エローラ石窟寺院とその彫刻（インド 1983年）
- パーミヤン大仏と石窟（アフガニスタン 2003年）
- アンコールトム（カンボジア 1992年）
- タージマハル（インド 1983年）
- 姫路城（日本 1993年）
- 万里の長城（中国 1987年）



兵馬俑を制作する張燕さん（中国）

鳥取砂丘の砂は国内、世界各国の砂と比べて粒子が細かいため、繊細な彫刻作品をつくることのできる良い砂です。しかし、崩れにくい彫刻をつくるためにはむしろ粒子が均一でない方がよく、鳥取砂丘の砂を使った彫刻制作は、高い技術が必要とします。



**A** 鳥取砂丘の砂は国内、世界各国の砂と比べて粒子が細かいため、繊細な彫刻作品をつくることのできる良い砂です。しかし、崩れにくい彫刻をつくるためにはむしろ粒子が均一でない方がよく、鳥取砂丘の砂を使った彫刻制作は、高い技術が必要とします。

**Q** 砂の彫刻をつくるのに、鳥取砂丘の砂は適しているのですか？

（1）完成した彫刻が風化しないように、水のでコーティングします。

（2）型枠を上段から外し、砂を彫刻していきます。一度削った砂は再度盛り固めることができないため、繊細な作業が要求されます。

（3）完成した彫刻が風化しないように、水のでコーティングします。

**A** 砂の彫刻は、どのようにつくるのですか？

次の順序でつくっていきます。

（1）デザインに合った型枠（木枠）を組みます。

（2）木枠の中に砂を入れ、その後で同量の水を入れて砂の中の空気を抜きます。次に、転圧機を使って締め固めます。この作業を繰り返して行い、土台となる型枠をつくります。